

段差を使用した内外空間の設計

八代研究室

00312033 松本 真純

1. 設計趣旨

本設計では、空間を分ける壁以外の要素である段差に注目し、段差を使用した内外空間の構成、特に住宅空間をいかに構成するかを考えたいと思う。同時に空間の繋がりを深くするため、扉の使用を極力控えた構成を心がけた。

2. 設計条件・敷地情報 (図 1)

東京都杉並区にある閑静な住宅街の一角に実在する敷地である。最寄り駅より徒歩 3 分の場所に位置し、南側が幅員 6~7m の道路に面しており、南面以外の 3 方向が隣家に囲まれている。

南面が開けており、周りに大きな建物も無いため日当りは良好である。

家族構成は夫婦 1 + 子供 1 の合計 3 名を想定し設計を行う。

敷地詳細：東京都杉並区

第一種低層住居専用地域、準防火地域

第一種高度地区

面積 397.504 m² 122.686 坪

建ぺい率 50% 容積率 100%

家族構成：夫婦 + 子供 1

4. プラン説明 (図 4,5)

本設計では庭を北側取る事で、中庭のような空間をつくっており、庭との一体感を持てるように、特に北側の開口を大きくとっている (図 3)。内部の構成は東側に寝室などのプライベート空間を配置し、西側に客間、ダイニング等の家族以外にも使用する空間を設けている。プライベート空間とオープン空間の区切りとして中央にタワーを設け、そこにキッ

ン、トイレ、風呂などの水場関係、及び階段を配置している (図 4,5)。

東側のプライベート空間は、南側に前庭、北側に奥庭を配し、建物の内外を連続した段差空間としている。特に親寝室からは、前庭、奥庭両方を見通す事ができ、秋には、キャンパスプールに移ったイロハモミジの紅葉を楽しむ事もできる (図 4)。

玄関の天井高を他より抑える事によりそのまま連続空間となっている客間、ダイニングなどのオープン空間の天井高をより大きく見せている。ダイニングは掘りごたつの様な机とする事により、キッチンとダイニング空間に座った者の視線の高さが合うように考慮した (図 6,7)。

床下を大きく取る事により、基本の収納を床下収納とした。これにより、視線より高い位置に収納等がこないよう考慮した (図 6,7)。

5. バリアフリーについて

現在バリアフリー化が進められ、建築物の段差を出来る限り少なくする事が重要視されている。だがこれは、段差を上る為の筋力を衰えさせる事にもつながると考え、住まうだけで適度な運動の出来る住空間の設計を行う事により、老後へと繋げる事でバリアフリーへの取り組みと考え、各フロアには必ず段差による空間の仕切りを設けている。

6. 構造

北側と南側、特に北側に開口を大きくとっているため、東西方向の壁量が少なくなっている。これに対し、中央部に設けたタワーにより、東西方向の壁量を充足させている。天井は張弦梁を用い、柱の無い大空間を造っている。

述べ床面積：161.508 m²
 建築面積：127.813 m²
 屋根構造：木造張弦梁構造
 主要構造：RC&木造混構造

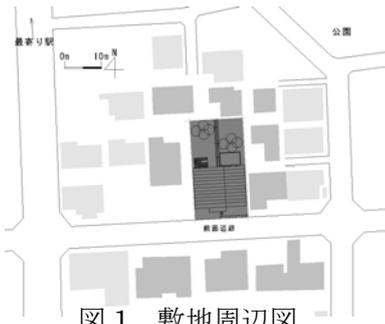


図1 敷地周辺図

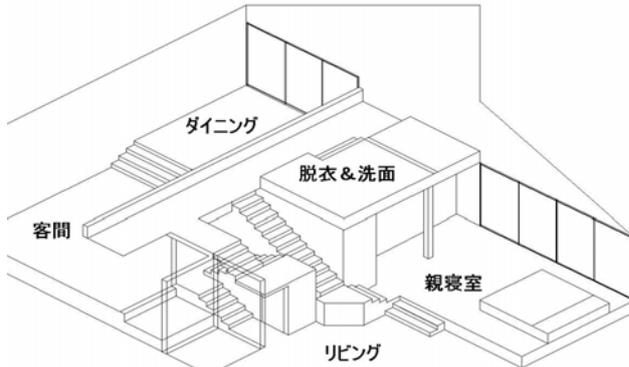


図2 内観



図3 外観(庭より)

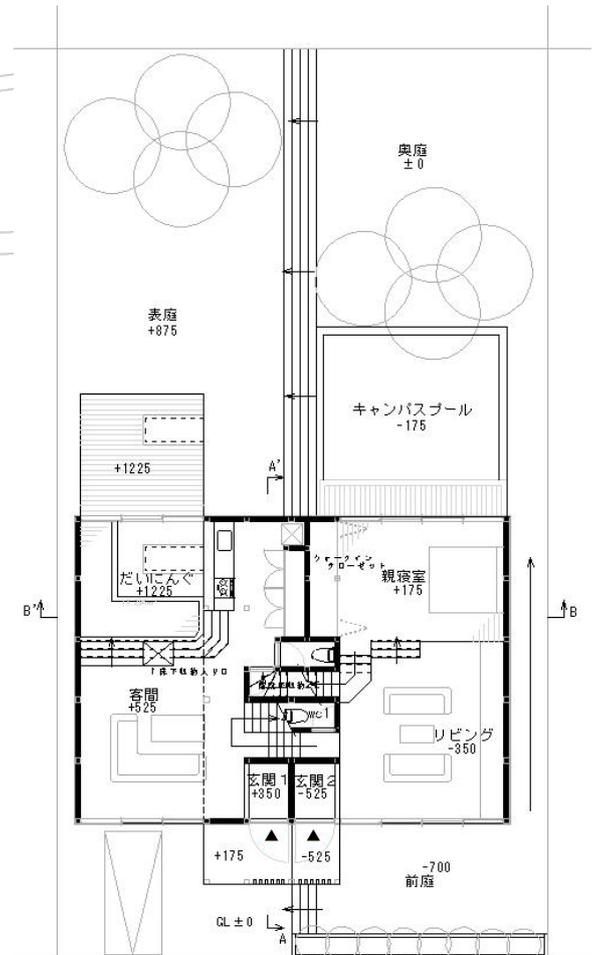


図4 1階平面図

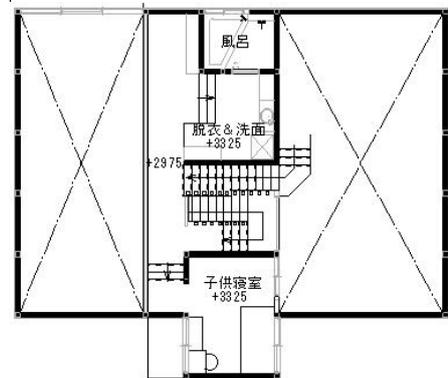


図5 2階平面図



図6 A-A'断面図

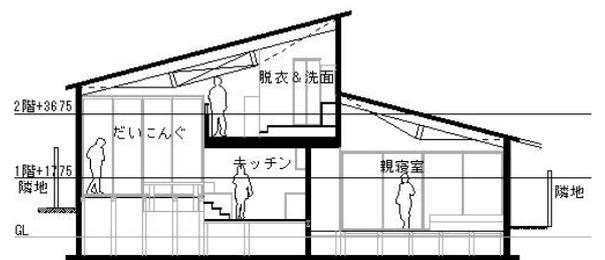


図7 B-B'断面図